

## 1. 調査方法

塩嶺トンネルの通過するトンネル線上から両側に約10kmの範囲内に永久方形区を設定した。永久方形区の大きさは、対象となる植生の違いによって異なり、2 m×2 mから、20 m×20 mまでの様々な大きさの方形区が設定された。方形区内に生育する植物種群は、群落階層別に全リストが作成され、各々の種に対して Braun-Blanquet 1964 の全推定法による被度 (Deckungsgrade) と群度 (Soziabilitätsgrade) の量的測定値があたえられた。

調査は 1977 年 12 月 21 日に各方形区のくいうち作業をおこない、1978 年 5 月 22 日、10 月 2 日、さらに 1979 年 5 月 20 日、10 月 3 日の年 2 回、春季と秋季に生育植物の調査をおこなった。

## 2. 調査結果

永久方形区設定数 39 ヶ所のうち、後日の人為的な植生破壊等により、現在なお継続調査がおこなわれている調査区は 34 ヶ所である。さらに、この 34 ヶ所のうち 5 地点については一季節相についてのみ調査がおこなわれている。したがって、春、秋の年 2 回の調査がおこなわれている調査区は 29 ヶ所である。

各調査区での生育植物の全リストと植被率、群度の量的数値は表 6～38 に示された。また各調査区の位置は図 1 に示されている。

表 1 永久方形区一覧表

方形区 番号	優占種	生活形	群落階層 (M)=コケ層	群落の 高さ(m)	調査面積 (m×m)	方位	傾斜 (°)	標高 (m)
1	スギ	常緑針葉高木林	3	20	2×20	NW	10	820
2	コナラ	夏緑広葉高木林	4	13	20×20	N	10	975
3	アカマツ	常緑針葉亜高木林	3(M)	7	10×10	—	—	935
4	ミヤマイボタ	落葉低木林	2(M)	2	5×10	—	—	935
5	カラマツ	夏緑針葉高木林	3	13	5×20	—	—	965
8	ハンノキ	夏緑広葉高木林	3	12	5×20	—	—	880
9	ツルネコノ メソウ	湿生多年生 草本植物群落	2	0.6	2×2	—	—	915
10	カラマツ	夏緑針葉高木林	4	12	7×20	—	—	930
11	シバ	多年生草本植物 群落	1	0.7	2.5×4	—	—	935
12	ナガハグサ	〃	1	0.8	3×3	—	—	920